④ 環境マネジメントへの取組状況

環境・安全推進センター及び各室の主な業務（5頁）

（2026年5月1日現在）

センターの所掌業務	各室の主な業務		
・環境マネジメントに関すること ・安全衛生・健康管理に関すること ・毒劇物の管理に関すること ・化学物質等の管理に関すること ・危険物の管理に関すること ・労働災害に関すること ・放射線障害防止に関すること ・核燃料物質の管理に関すること	環境マネジメント推進室（設備環境課）		・環境保全及び安全衛生管理上の作業環境に関する企画、調査及び連絡調整に関すること
			・環境保全及び労働安全衛生上の作業環境に係る法にもとづく届出に関すること
			・その他設備工事の実施及び管理、環境保全又は安全衛生管理上の作業環境に関すること
	労働安全衛生室		・各事業場の労働安全衛生委員会への対応
			・健康診断結果の就業判定及び指導
			・健康相談及び指導
			・産業衛生及び公衆衛生の普及及び啓発活動
	環境・安全推進室	（人事労務課）	・安全衛生管理に関する企画、調査及び連絡調整に関すること（設備環境課の所掌に属するものを除く）
			・環境・安全委員会に関すること
			・労働安全衛生に係る法にもとづく届出に関すること（設備環境課の所掌に属するものを除く）
			・職員の保健衛生及び安全保持に関すること
			・労働災害の補償に関すること
			・特定化学物質等の管理に関すること
			・その他安全衛生管理に関すること
		（研究コンプライアンス推進室）	・放射性同位元素等の使用に係る許可申請・届出及び放射線障害の予防に関すること
			・遺伝子組換え実験の承認申請等に関すること
			・動物実験の承認申請等に関すること

環境マネジメント体制における各委員会の所掌概要（5頁）

（2026年5月1日現在）

委員会等名称	所掌事項概要
環境・安全委員会	①環境保全に関する事項 ②労働安全衛生法その他関係法令にもとづく実験室等の安全に関する事項 ③健康管理及び衛生管理に関する事項 ④放射性物質及び原子力等の安全に関する事項 ⑤遺伝子組換え実験の安全に関する事項 ⑥動物実験に関する事項 ⑦省エネルギー・省資源に関する事項 ⑧感染症対策に関する事項 ⑨研究用微生物を使用する実験の安全に関する事項 ⑩その他環境及び安全衛生に関する重要事項
環境マネジメント専門委員会	①環境保全に係る施策の企画・立案及び基本方針に関する事項 ②廃棄物（放射性物質を含む廃棄物を除く。）による大気の汚染、水質の汚濁、土壌の汚染及び悪臭ならびに騒音及び振動の調査及び防止対策に関する事項 ③大学構成員に対する環境保全教育に関する事項 ④環境保全センターに関する重要事項 ⑤エネルギー使用の合理化、その他エネルギー管理に関する事項 ⑥環境報告書の作成に関する事項 ⑦その他環境マネジメントに関する事項

環境保全センターの主な業務（5頁）

（2026年5月1日現在）

センターの目的	主な業務
東北大学の教育研究活動に伴って生ずる有害物質を含む排水、廃油及び廃有機溶剤（放射性物質を含む廃棄物を除く。）を適正に処理し、及びその処理に関する技術開発等を行うとともに、化学原料化において2次公害となる物質の排出を抑制する技術を確立することにより、環境の保全に資することを目的とする。	・廃液処理（収集運搬含む）、廃液分析 ・排水分析 ・沢水分析 ・PCB分析 ・土壌調査 ・PRTR ・アスベスト調査

2 環境マインドを備えた人材の育成

2-1 環境関連の教育（17頁）

2025年度学問論演習　環境関連テーマ

環境関連テーマ	受講者数	受講者所属
人間活動と気候変化	16	理6、医1、薬1、工1、農7
世界防災と国際機構	11	文1、教2、法3、経2、理2、薬1
バイオモノづくり：化石資源依存脱却と経済成長の両立を考える	5	薬1、工1、農3
水と環境	8	文1、経1、理4、工1、農1
ウシ学のススメ ～家畜と食と環境と私～	12	文1、教1、医1、薬4、農5
食料・環境・経済をむすぶ	15	理1、医1、薬4、農9

2025年度工学部創造工学研修　環境関連テーマ

開設研究科等	創造工学研修テーマ・内容	受講者数
工学研究科	脱炭素・資源創出型バイオマス発電システム	5
	二酸化炭素から炭酸カルシウムに転換する	5
	骨からつくる環境浄化材料	3
	バイオマスを変換する触媒をつくる	5
	環境汚染物質分解触媒の探索	2
	プラスチックのケミカルリサイクルに挑戦！	6
	食酢をリサイクルに活用しよう	2
	体にやさしいソフトマテリアルを作ってみよう	5
	工学的視点で水環境を測ってみよう	2

2025年度環境関連教育科目演習・実習等

実施部局	講義科目		演習・実習等科目	
	開講数	受講者数	科目名	受講者数
法学部 法科大学院 公共政策大学院	3	31	環境・コミュニケーション演習	10
経済学部・経済学研究科	—	—	演習Ⅰ、Ⅱ	46
			環境経済学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	8
			Seminar in Economics a, b	6
			Project Guidance in Econ a, Econ b	6
			留学生を対象とした被災地スタディ	40
理学部・理学研究科	22	258	Ⅰラボ研修Ⅰ、Ⅰラボ研修Ⅱ（金属鉱物資源機構（JOGMEC）による実習）	10
			地圏環境科学実習Ⅰ	27
			地圏環境科学実習Ⅱ	27
			環境・地球科学特別実験Ⅰ	1
医学部・医学系研究科	2	106	—	—
農学部・農学研究科	15	1,330	生産フィールド実習	207
			農場実習	91
			復興・IT農学	25
			複合生態フィールド科学専門実習	13
			臨海実習	26
			農村調査実習	11
環境科学研究科	63 (2)	984	環境科学演習	34
			環境科学演習 Seminar on Environmental Studies	10
			先進社会環境学演習	9
			環境政策特殊演習	7

2025年度環境関連教育科目演習・実習等（つづき）

実施部局	講義科目		演習・実習等科目	
	開講数	受講者数	科目名	受講者数
工学部・工学研究科	37 (1)	1,443	建築・社会環境工学演習	111
			社会環境工学実験	62
			水環境デザイン演習Ⅰ	24
			水環境デザイン演習Ⅱ	21
			水環境デザイン研修A	21
			水環境デザイン研修B	21
			水環境学特別研修	9
			環境資源化学セミナー	8
			水環境学セミナー	17
			環境設備実習	5
国際文化研究科	9	33	国際環境資源政策論総合演習A, B	4※
			国際環境資源政策論特別講義A, B	2※
			国際環境資源政策論特別演習A, B	2※
			国際環境資源政策論特別研究A, B	2※
			国際政治経済論総合演習A, B	40※
			国際政治経済論特別講義A, B	8※
			国際政治経済論特別演習A, B	12※
			国際政治経済論特別研究A, B	4※
生命科学研究科	2	201	—	—
多元物質科学研究所	3	68	—	—
全学教育科目	20	2,666	文科系のための自然科学総合実験	54

※ 休講・不開講の授業・講座等は表中の数値に含まないものとする。
※（ ）は今年度新たに開講した科目数（内数）を示す。
※ 国際文化研究科の演習・実習等科目の受講者数はA、Bの合計人数とする。

2025年度オンライン学習サービス「東北大学MOOC」コンテンツ（環境関連）

開講日	講座題目	講師
2025年6月4日～2026年3月31日	解明：オーロラの謎	理学研究科　小原　隆博
2025年6月4日～2026年3月31日	東日本大震災の教訓を活かした実践的防災学へのアプローチ ―災害科学の役割	災害科学国際研究所　今村　文彦　他
2025年8月6日～2026年3月31日	放射線安全社会入門 ～リスクの知見を暮らしに～	ナノテラス共創推進機構　新堀　雄一　他
2026年1月14日～2026年3月17日	海産毒の科学	農学研究科　山下　まり　他

2-2 国際的教育プログラム（18頁）

大学院ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラムの2025年度受講者数と取得可能な学位

研究科	2025年度受講者数	取得可能学位
医学系研究科	2 （1）	修士（医科学）
農学研究科	41 （7）	修士（農学）、博士（農学）
環境科学研究科	4 （－）	修士（環境科学）、修士（学術）、博士（環境科学）、博士（学術）

（ ）は修了者数（内数）を示す。

大学院ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラムの延受講者数と国籍（2021～2025年度）

年　度	延受講者数	国　籍
2021	12	中国、インドネシア、ナイジェリア、台湾、ベトナム
2022	12	中国、コンゴ、インドネシア、マレーシア、モザンビーク、フィリピン、台湾、ベトナム
2023	22	カメルーン、中国、コンゴ、インドネシア、モンゴル、モザンビーク、ネパール、フィリピン、台湾、アメリカ合衆国、タイ、ベトナム
2024	29	カメルーン、中国、コンゴ、インド、インドネシア、モンゴル、モザンビーク、ネパール、フィリピン、スーダン、アメリカ合衆国、タイ、ジンバブエ
2025	47	アルゼンチン、バングラデシュ、カメルーン、中国、コンゴ、ガーナ、インド、インドネシア、日本、ラオス、ミャンマー、ネパール、フィリピン、ルワンダ、スーダン、シリア、タイ、アメリカ合衆国、ベトナム、ジンバブエ

バイオインダストリー人材育成プログラムの延受講者数と国籍（2021 ～ 2025年度）

年度	延受講者数	国籍
2021	133（0）	日本、アルジェリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、韓国、スリランカ
2022	155（0）	日本、バングラデシュ、中国、エチオピア、インド、インドネシア、ナイジェリア、アメリカ合衆国、トルコ
2023	134（2）	日本、カナダ、中国、韓国、マレーシア、ナイジェリア、スウェーデン、台湾
2024	147（1）	日本、カナダ、中国、インドネシア、カザフスタン、マレーシア、シンガポール、台湾、ベトナム
2025	162（0）	日本、バングラデシュ、カナダ、中国、インド、韓国、シンガポール、台湾、アメリカ合衆国、ベトナム

（ ）は修了者数（内数）を示す。

グローバルガバナンスと持続可能な開発プログラムの延受講者数と国籍（2021 ～ 2025年度）

年度	延受講者数	国籍
2021	14（5）	ブラジル、カメルーン、中国、コロンビア、韓国、ペルー、タイ、トルコ
2022	17（3）	ブラジル、カメルーン、中国、インドネシア、韓国、ペルー、アメリカ衆国、トルコ
2023	21（8）	ブラジル、中国、インドネシア、韓国、アメリカ合衆国、トルコ
2024	15（2）	ブラジル、中国、インドネシア、アメリカ合衆国、トルコ
2025	20（4）	中国、ドイツ、インドネシア、ベトナム、ケニア、日本、アメリカ合衆国

（ ）は修了者数（内数）を示す。修了時には学位の他にG2SDプログラム修了証も授与される。

国際環境セキュリティリーダー育成プログラムの延受講者数と国籍（2022 ～ 2025年度）

年　度	延受講者数	国　　籍
2022	51（11）	アフガニスタン、バングラデシュ、中国、エクアドル、エルサルバドル、インド、インドネシア、イラン、イタリア、マレーシア、モンゴル、ロシア、スリランカ、タイ、フィリピン、アメリカ合衆国、ベトナム
2023	48（11）	アフガニスタン、バングラデシュ、中国、エクアドル、ドイツ、インド、インドネシア、イラン、イタリア、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ナイジェリア、フィリピン、ロシア、スリランカ、アメリカ合衆国、タイ、ベトナム
2024	35（11）	バングラデシュ、中国、エクアドル、ドイツ、インド、インドネシア、イラン、イタリア、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ナイジェリア、フィリピン、ロシア、スリランカ、アメリカ合衆国、タイ、ベトナム
2025	36（14）	バングラデシュ、中国、コンゴ民主共和国、フランス、インドネシア、モンゴル、ミャンマー、ナイジェリア、パキスタン、フィリピン、ロシア、タイ、ベトナム

（ ）は修了者数（内数）を示す。2022年度は前身の国際環境リーダー育成プログラム（IELP）の修了者数（内数）を示す。

【経済学部】短期留学プログラム（タイ研修）における体験型環境学習

経済学部では、経済・経営に特化した短期留学プログラムを実施しています。2025年度は、2026年2月18日～3月8日にタイにて行われました。プログラムの一環として、バンコク郊外に位置するワット・レーム・ファーパー学校を訪問し、6年生の生徒30名と本学の学生が、環境保護を目的としたマングローブの植林活動や、折り紙等を通した文化交流を行いました。本プログラムは、将来、社会で活躍し貢献できる人材の育成に大きく寄与するものと期待され、参加した学生達はグローバルな視点と社会貢献への意識を深めました。





タイ研修におけるマングローブの植林活動・文化交流の様子

3 環境関連研究の紹介

科学研究費助成事業における環境関連研究件数（22頁）

研究種目	2025年度（最終年度）研究成果報告書件数	環境関連研究課題件数（%）※1
基盤研究（S・A・B・C）	377	73 （ 19.4% ）
若手研究	157	25 （ 15.9% ）
挑戦的研究（開拓・萌芽）	77	18 （ 23.4% ）
研究活動スタート支援	47	8 （ 17.0% ）
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化等）	14	3 （ 21.4% ）
奨励研究	10	4 （ 40.0% ）
学術変革領域研究（A・B）	15	3 （ 20.0% ）
合　計	697	134 （ 19.2% ）

※1 環境関連研究課題件数については、研究課題及び研究成果（概要）の中に、表Ⅱ-11の「関連する研究分野」欄のキーワード等を含んでいるものの件数を合計。

4 環境コミュニケーションの推進

4-2 環境情報の社会との連帯と共有活動（28頁）

オープンキャンパス（対面方式）**で紹介した環境関連テーマ**（2025年度）

実施部局	開催形式	講義・授業テーマ
工学研究科	公開講義・研究内容展示等	【公開講義】 ・電池・燃料電池の健康診断（機械知能・航空工学科） ・生態や環境を修復する材料（同上） ・金属材料資源の有効利用と循環（材料科学総合学科） ・新しい川のデザイン 洪水と環境と快適性をどう考える？（建築・社会環境工学科） その他、機械知能・航空工学科エネルギー環境コース、材料科学総合学科材料環境学コース、ならびに建築・社会環境工学科水環境デザインコースをはじめとした、環境関連研究室の研究室公開を行った。
環境科学研究科	研究内容展示等	研究室ごとに種々のテーマで以下のとおり研究内容の展示を行った。 ・環境・生命との調和を生み出す材料の創製（上高原研） ・自然共創型バイオテクノロジー：植物・微生物機能を活用した環境保全技術（簡研） ・地殻のプロセスと流体の役割 ～地熱・鉱床・地震・CO_2固定～（岡本研） ・建設機械Xセンシング＝知能建機による土工・採石の未来（地球開発環境学分野） ・資源とCO_2の循環をより効率的に。同時に環境浄化も！（飯塚研） ・地殻環境・エネルギー技術の新たな扉を開く（坂口研） ・クリーンエネルギーシステムに必要不可欠な革新的機能性非金属軽元素材料の開発（佐藤（義）研） ・地圏環境科学の深化と持続可能なエネルギー資源開発（渡邊研） ・現代の錬金術 ～簡単・簡便に、常温・常圧溶液中で高機能ナノ材料を創製する～（高橋（英）・横山研） ・再生可能エネルギーを活用した脱炭素化を加速させるための社会、経済、技術、工学的研究（小端研） ・身近な資源の一生を考えて、資源をムダなく使う仕組みを考えよう！（松八重研） ・計算科学を活用した“粉”のプロセス作りの現場（加納研） ・Geo（地球）+Mechanics（力学）による地球温暖化ガスを削減するためのエネルギーと新技術の開発（伊藤・椋平研） ・金属資源のリサイクルの促進と効率化（柴田（悦）研） ・人類の未来を切り拓く、エネルギー材料・低環境負荷材料を創りだす！（小俣研） ・機能材料の創製と熱物性計測法の開発（福山・大塚研） ・資源・物質循環型社会に貢献する機能性材料の創製と応用（亀田研） ・資源循環と製品の二次原料化（齋藤研） ・GIS体験「それ、地図にしたらわかるかもね」（中谷研） ・最新化学技術で未来社会をデザインしよう（福島研） ・美食地政学にもとづくグリーンジョブマーケットの醸成共創拠点（環境研究推進センター）

環境に関する各種公開講座の実施状況（2025年度）

区分	実施部局	講座の名称	回 数	延受講者数※1
みやぎ県民大学	環境科学研究科	材料の機能で環境を守る	4	20
	金属材料研究所	持続可能な未来社会を創る材料の科学と技術（写真参照）	4	248
公開講座・開放講座	経済学研究科	BLUELANDラボ ワークショップ 「農業・漁業を生かした、環境保全型地域経済の発展を考える」 （主催：一般社団法人ODYSSEY）	1	30
	工学研究科	「夢ナビライブ2025」（主催：株式会社フロムページ）	1	220
	グリーン×デジタル産学共創大学院	グリーン・データ科学特別セミナー 「バイオマス資源を活かした持続可能なものづくりによるグリーン社会の実現」	1	13
	流体科学研究所、工学研究科	今、エネルギーを考える	1	45
	変動海洋エコシステム高等研究所、ネイチャーポジティブ拠点（生命科学研究科）	環境DNAと海洋生態系変動に関するブース＆トークイベント 「東北の魚のイマとミライ 海の中の“DNA”が手がかりに!?」 （せんだいうみの杜水族館）	2	106
	農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター	食と環境のつながりを学ぶ「フィールド環境学」	1	84
	農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター	留学生とともにフィールドで日本の農業と食、環境を学ぶ 「海外留学生共修」（春）（秋）	2	76
	農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター	開放講座「Open Farm 2025」	1	22
	農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター	2025年度PICSオンライン市民講座 「ぐるぐるサイエンス　コンポスト･マメ･海藻にみる資源循環」	1	42
	学術資源研究公開センター等	片平キャンパス・樹木ツアー（春・秋）	4	80
	学術資源研究公開センター、植物園	植物写真ワークショップ（いがりまさし氏）	1	34
	文学研究科、植物園	紅葉の賀（植物園ガイドツアー37名含む）	1	183
出前授業	経済学研究科	模擬授業「環境経済学」※2 （宮城県仙台第一高等学校、宮城県仙台第二高等学校）	2	276
	工学研究科	理科共同実験講座「サイエンス・コ・ラボ」 持続可能なものづくり～バイオ燃料をつくってみよう！～ （仙台育英学園高校）	1	27
	工学研究科	みらい型科学者の卵養成講座 「国内資源の循環を考える～バイオ液体燃料の活用～」	1	105
	農学研究科	環境DNAで読み解く魚類の多様性 （三重県立宇治山田商業高等学校）	3	20
	農学研究科	宮城県沿岸のおさかなを環境DNAで調べよう（石巻西高等学校）	1	30
	国際文化研究科	持続可能性と資源循環をテーマとしたSDGs出前授業 （東日本大震災の被災地である宮城県東松島市の7つの小学校で開催）	7	280

※1 延受講者数は、対面形式、Web形式、もしくは両方の合計の人数とする。
※2 模擬授業は、仙台第一高等学校で1回、仙台第二高等学校で1回実施した。延受講者数は、両校の合計人数を示す。



みやぎ県民大学　講義風景



海外留学生共修（春）



海外留学生共修（秋）

行政支援～本学関係者が参画した環境関連の主な行政機関 委員会一覧～（2025年度）

委員会名	主催企画団体	役割
産業構造審議会　鉱業小委員会	経済産業省	委員
産業構造審議会　イノベーション・環境分科会 資源循環経済小委員会　自動車リサイクルWG	経済産業省	臨時委員
関東東北地方鉱山保安協議会	経済産業省	委員
中央環境審議会 総合政策部会風力発電に係る環境影響評価制度の在り方に関する小委員会	環境省	委員
令和7年度災害廃棄物対策推進検討会	環境省	委員
小型家電リサイクル小委員会	環境省	委員
ネイチャーポジティブ経済研究会コアメンバー会議	環境省	委員
水道における微生物問題検討会	環境省	構成員
社会資本整備審議会	国土交通省	委員
河川技術評価委員会	国土交通省	委員
災害廃棄物対策東北ブロック協議会	環境省　東北地方環境事務所	構成員
東北みらいDX･i-Construction連絡調整会議	国土交通省　東北地方整備局	会員
東北地方整備局契約変更適正化委員会専門部会	国土交通省　東北地方整備局	委員
東北地方整備局総合評価委員会機械電通部会	国土交通省　東北地方整備局	委員
東北地方整備局総合評価委員会河川部会	国土交通省　東北地方整備局	委員
東北地方整備局総合評価委員会道路部会	国土交通省　東北地方整備局	委員
東北地方整備局総合評価委員会営繕部会	国土交通省　東北地方整備局	委員
東北圏広域地方計画策定に関する有識者懇談会	国土交通省　東北地方整備局	委員
鳴瀬川水系河川整備学識者懇談会	国土交通省　東北地方整備局	委員
阿武隈川水系河川整備委員会	国土交通省　東北地方整備局	委員
東北地方整備局新技術活用評価会議	国土交通省　東北地方整備局	委員
東北地方整備局　水辺・絆プロジェクト選定委員会	国土交通省　東北地方整備局	委員
東北地方ダム管理フォローアップ委員会	国土交通省　東北地方整備局	委員
成瀬ダムCSG施工技術委員会	国土交通省　東北地方整備局	委員
最上川水系流域委員会	国土交通省　東北地方整備局	委員
東北ブロックにおける社会資本整備重点計画に関する有識者懇談会	国土交通省　東北地方整備局	委員
大阪湾岸道路西伸部技術検討委員会	国土交通省　近畿地方整備局	委員
北陸河川堤防調査委員会	国土交通省　北陸地方整備局	委員
農林水産政策研究所評価委員会	農林水産省　農林水産政策研究所	委員
宮城県環境審議会	宮城県	委員
宮城県環境審議会再生可能エネルギー等・省エネルギー促進部会	宮城県	委員
宮城県環境審議会循環型社会推進専門委員会	宮城県	委員
宮城県環境影響評価技術審査会	宮城県	委員
宮城県自然環境保全審議会	宮城県	委員
女川原子力発電所環境調査測定技術会	宮城県	委員
女川原子力発電所環境保全監視協議会	宮城県	委員
みやぎ高度電子機械人材育成センター運営会議委員会	宮城県	委員
宮城県事業認定審議会	宮城県	委員
村田町竹の内地区産業廃棄物最終処分場生活環境影響調査評価委員会	宮城県	委員
宮城県行政評価委員会	宮城県	委員
宮城県青少年問題協議会	宮城県	委員
宮城県都市計画審議会	宮城県	委員
宮城県開発審査会	宮城県	委員

委員会名	主催企画団体	役割
宮城県高潮浸水想定の設定に関する検討会	宮城県	委員
宮城県企業局経営審査委員会	宮城県	委員
宮城県沿岸海岸保全基本計画の変更に関する技術検討会	宮城県	委員
宮城県公共工事等入札・契約適正化委員会	宮城県	委員
宮城県住宅施策懇話会	宮城県	委員
宮城県保健環境センター評価委員会	宮城県	委員
令和7年度みやぎゼロカーボンアワード選考会	宮城県	委員
宮城県社会教育委員の会議	宮城県	委員
第14次宮城県生涯学習審議会	宮城県	委員
宮城県文化財保護審議会	宮城県	委員
青森県環境審議会	青森県	委員
青森県環境影響評価審査会	青森県	委員
青森県原子力政策懇話会	青森県	委員
青森県量子科学センター評議会	青森県	委員
青森県原子力・エネルギー対策県民会議	青森県	委員
岩手県環境審議会	岩手県	委員
岩手県海岸保全基本計画検討協議会	岩手県	構成員
秋田県環境審議会	秋田県	委員
Yamagata幸せデジタル化構想2.0（仮称）検討委員会	山形県	委員
山形県総合政策審議会	山形県	委員
福島県沿岸海岸保全基本計画の変更に向けた検討会	福島県	委員
福島県原子力発電所の廃炉に関する安全監視協議会	福島県	委員
ふくしまエネルギー・環境・リサイクル関連産業研究会　企画推進委員会	福島県	委員
新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会	新潟県	委員
東京都都市復興基本計画検討委員会	東京都	委員
富山県環境審議会土壌専門部会	富山県	専門員
えひめEVサーキュラーエコノミー推進協議会	愛媛県	オブザーバー
普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境監視等委員会	沖縄県（沖縄防衛局）	委員
仙台市環境審議会	仙台市	委員
仙台市環境影響評価審査会	仙台市	委員
杜の都の環境をつくる審議会	仙台市	委員
仙台市男女共同参画推進審議会	仙台市	委員
仙台市予防接種健康被害検討委員会	仙台市	委員
仙台市創エネルギー導入促進助成金交付事業審査委員会	仙台市	委員
仙台市廃棄物対策審議会	仙台市	委員
仙台市中小企業活性化会議	仙台市	委員
仙台市宅地保全等審議会	仙台市	委員
仙台市下水道マスタープラン検討委員会	仙台市	委員
仙台市景観総合審議会	仙台市	委員
都市整備局指定管理者選定委員会	仙台市	委員
仙台市都市再生整備計画評価委員会	仙台市	委員
仙台市廃棄物処理施設設置等調整委員会	仙台市	委員
蒲生北部地区市有地利活用事業者選定委員会	仙台市	委員
仙台市大規模小売店舗立地法専門委員会	仙台市	委員
今泉工場建替検討委員会	仙台市	委員

委員会名	主催企画団体	役割
仙台城跡調査・整備委員会	仙台市	委員
バイオマス産業都市構想検討委員会	大崎市	委員
大崎市ラムサール条約湿地保全活用委員会	大崎市	委員
栗原市一般廃棄物処理施設建設候補地選定委員会	栗原市	委員
塩竈市文化財保護審議会	塩竈市	委員
特別史跡多賀城跡附寺跡保存活用計画策定委員会	多賀城市	委員
石巻市総合計画推進会議	石巻市	委員
石巻市上釜南部地区被災市街地復興土地区画整理審議会	石巻市	委員
石巻市中央二丁目地区被災市街地復興土地区画整理審議会	石巻市	委員
岩沼市環境審議会	岩沼市	会長
（仮称）道の駅しろいし整備事業推進検討委員会	白石市	委員
松島町総合計画審議会	松島町	委員
上北沢排水処理施設検討委員会	大衡村	委員
仙台市公園緑地協会理事会	公益財団法人仙台市公園緑地協会	理事
六ヶ所村原子力安全管理委員会	六ヶ所村	委員
北上市協働推進審議会	北上市	委員
福島市環境審議会	福島市	委員
葛飾柴又の文化的景観保存・活用推進委員会	葛飾区	委員
等々力緑地再編整備・運営等事業推進懇談会	川崎市	委員
四日市のコンビナートのカーボンニュートラル化に向けた検討委員会	四日市市	委員

【環境科学研究科】サイエンスアゴラ2025　南アフリカ共和国のブース展示に参加

科学技術振興機構（JST）主催のサイエンスアゴラ2025にて、南アフリカ共和国のブースでは、SDGs達成に欠かせないサーキュラーエコノミーの取組として、日本と南アフリカで実施している共同研究「カーボンリサイクルシステムの開発」より、セメント産業で化学反応を巧みに使いながら二酸化炭素や廃棄物を有効活用し、資源を循環していく様子を紹介しました。

本学環境科学研究科の飯塚 淳教授、何 星融助教は、在日南アフリカ大使館の担当者と共に、本ブースにて、CRER/SATREPS プロジェクト※1の成果の発表を行いました。特に、南アフリカ共和国と日本におけるプロジェクトの研究活動の成果や、人材育成・人材交流の成果についてイベントへの来訪者に説明しました。

※1 JST/JICAのSATREPS（地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム）で実施されている CRER プロジェクト（Development of a Carbon Recycling System toward a Decarbonised Society by Using Mineral Carbonation）



ブース展示の様子

環境に関する各種シンポジウム及び講演会の実施状況（2025年度）

実施部局・関係団体	講演会・シンポジウムタイトル／テーマ	概要	来訪者数※1
東北大学／内閣府	第7期科学技術・イノベーション基本計画の共創に向けた全国キャラバン「国際卓越研究大学としてのSOKAP※2が描く未来社会像の構想」	プロセス開発を担う人材育成と実用化支援の取組を共有し、研究成果を量産化へとつなぐ産学官共創の在り方を議論することを目的とする。	252
工学研究科、グリーン未来創造機構グリーンクロステック研究センター	東北大学工学研究科×グリーンクロステック研究センターシンポジウム	研究成果を量産化プロセスとして社会実装へ展開する取組を共有し、量産化技術と人材育成の在り方を示すことで、持続可能な産業創出の方向性を議論することを目的とする。	71
国際文化研究科	地震津波に関する防災情報とその活用	MS & ADインターリスク総研株式会社 顧問の関田 康雄氏をお招きし、気象庁が発表する地震・津波に関する情報をどのように防災と減災に活かすことができるかについてご講演いただいた。	49
国際文化研究科	第10回IPE-SDGs講演会「海の中を知る大切さ」	東京大学大気海洋研究所専属ダイバーの福田 介人氏をお招きして、変わり続ける海洋環境、特に東日本大震災後の宮城の海の現状についてご講演いただいた。	48
金属材料研究所	先端エネルギー材料理工共創研究センター（E-IMR）2025年度ワークショップ	脱炭素社会の実現、2050カーボンニュートラルの達成に向けたエネルギー材料の先端的な研究、および「太陽エネルギーと3つの『蓄』の最大化に貢献するエネルギー材料研究」プロジェクトに関する各種の講演・研究発表を行った。	50
未来科学技術共同研究センター	第32回未来科学オープンセミナー「地球温暖化を克服するふく射伝熱制御のナノテクノロジー ―遮熱塗料や涼しい温室への新展開―」	ふく射伝熱制御に関するナノテクノロジーが、地球温暖化に伴う生活環境の悪化や農作物への被害といった問題解決の突破口となる可能性があることを紹介する。先ず、地球温暖化とふく射伝播の関係について解説し、次に、講演者らのグループがこれまで取り組んできた遮熱塗料や涼しい温室に関するナノテクノロジー研究に言及し、地球温暖化を克服するための提案を概説する。	128
レアメタル・グリーンイノベーション研究開発センター、材料科学コアリサーチクラスター	RaMGI第11回フォーラム・CRC-MS第3回産学連携フォーラム	レアメタル・グリーンイノベーション研究開発センター(RaMGI)と材料科学コアリサーチクラスター(CRC-MS)の共同主催によるフォーラムで、株式会社IHI、トヨタ自動車東日本株式会社、株式会社荏原製作所の担当者より、共創研究所での具体的な活動事例についてご講演をいただいた。本フォーラムを通して、材料科学分野の研究者や企業の方々に、新たな共創研究所設立のきっかけを提供することを目的とする。	約143
グリーン未来創造機構	東北大学グリーン未来創造機構シンポジウム「強靭な未来を支えるスマートエネルギー：創エネ・蓄エネ・スマートマネジメントにおける東北大学の最先端研究」	再生可能エネルギーの普及による発電量の変動を吸収する仕組みとして、2024年度より稼働開始し、多業種からの事業参入も多く、注目を集める電力需給調整市場。本セミナーでは、電力需給調整市場やエネルギーグリッド内での電力マネジメントに関する研究から、調整力として期待される蓄電池やメタネーション等の各要素について、東北大学における最新の研究動向と研究成果を紹介する。	112
東北大学COI-NEXT※3	東北大学COI-NEXT合同シンポジウム2025 公共課題に挑む大学の力 ～東北大学COI-NEXTの挑戦～「ソーシャルビジネスと大学が生み出す総合知」	本シンポジウムでは、「公共課題に挑む大学の力」を主題に、東北大学COI-NEXTの3拠点が取り組む研究・社会実装の成果と展望を共有し、「ソーシャルビジネスと大学が生み出す総合知」の可能性について議論する。それぞれの現場で進む挑戦を通じて、未来をともに創るヒントを探る。	約230

※1 来訪者数は、対面形式、Web形式、もしくは両方の合計の人数とする。

※2 Sustainability Open Knowledge-Action Platform
持続可能な社会の実現や人類の幸福への貢献を目指し、多様なステークホルダーとの共創により、「総合知」による最先端研究の推進、社会を変えていく人材の育成、社会との双方向コミュニケーションによる信頼性の高い協働を実現するオープン・プラットフォーム構想のことを示す。

※3 JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）事業の「共創の場形成支援プログラム」のこと。大学等が中心となって未来のあるべき社会像（拠点ビジョン）を策定し、その実現に向けた研究開発を推進するとともに、持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指す産学連携プログラムで、「見える」を起点に健康な共生社会をめざす「Vision to Connect」、食を軸に地域の資源と文化を結ぶ「美食地政学」、自然との共生を再構築する「ネイチャーポジティブ拠点」の3件が採択されている。